

Mランドニュース Vol.209

丹波ささ山校 令和6年9月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 前川 昂希
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

自分のことを、この世の誰とも
比べてはいけない。
それは自分自身を侮辱する行為だ

ビル・ゲイツ

心を育む場所

変チーム 大澤 竜貴

今年も、多くの若者が夏
休みの期間を利用し、Mラン
ドに来てくださいました。

早朝八時から実施してい
るボランティアも、連日大盛
況で、多くのゲストと一緒に
汗を流し、活動に励んでい
ます。

ボランティアはもちろん自
由参加なので、決して強制
していませんが、入校翌日か
ら卒業するまでの間、毎日
参加して下さる方も少なく
ありません。

今回は、同じ大学の友達
と一緒に毎日ボランティアに
参加してくださっていた大菅
美海さんから、卒業時に感
想をいただきましたので紹
介させていただきます。

約二週間、早朝ボランテ
ィアに参加させていただき
ありがとうございます。いまし
た。

ボランティアに参加し始
めた時は、「朝起きるのし
んどいし…作業も大変だ
けど、お土産を買ったため
のポイントが欲しいし…ま

あ頑張るか」という、ボラ
ンティア精神とは大きく
かけ離れた気持ちで参加
していました(笑)。

でも、毎日続けてやって
いるうちに、早起きして掃
除をするのが気がスツキ
リするのを感じ、後半は楽
しく活動させていただき
ました。



また、普段何気なく使っ
ている公共のスペースも、
こんな風に誰かが苦労し
て掃除してくれているん
だろうなど、感謝の気持ち
を持つことができました。

免許取得のために来た
合宿でしたが、ボランティ
アを通じて様々な学びを
得ることができ、とても充
実した合宿生活を送るこ
とができました。

このような感想をいただ
けること、そしてボランティ
アをする前と、した後の自
分自身の変化を感じ取って
ただけることは担当してい
て、すごく幸せを感じる瞬間で
す。

Mランドは「心を創る学
校」。これからも免許取得の
みに留まらず、ボランティア
を通じて何か一つでも気づ
きや発見を持ち帰っていた
けるように、取り組んでい
きます!!

真夏のコース整備

共習チーム 前川 昂希

教習コースに描かれている
道路標示は、年中休まずに
教習で利用しているため、月
日と共にどんどん薄れてい
てしまいます。

今回、繁忙期に入る前に
どうしても修繕しておきた
いエリアがあり、ライン引き
を行いました。引き直したの
は、教習所では「ワンストップ
ゾーン」と呼ばれる、車の死
角と車体感覚を伝えるため
に使うエリアです。

このエリアは長い間、補修
ができておらず、左の写真の

ように、ほとんど白線が消え
てしまっていて、使いものにな
らない状態になってしまってい
ました。



真夏の太陽が照り付ける
中、暑さ対策と水分補給に
は十分注意し、まずは白線
の草抜きと道路に溜っている
砂埃を取り除き、白線を引
いていきます。

太陽に熱せられたコンク
リートからの熱も相まって、
汗だくになりながら、作業
を進めました。

「ワンストップゾーン」は運
転技術の向上において、非常
に大事なエリアなので、「直
線」、「並行」、「距離」に細心
の注意を払い、引き直しま
した。

慣れない作業に四苦八苦
し、途中「あ…やってしまっ
た」という場面も多々あ
りました。😓という場面も多々あ
りましたが、なんとか元の姿
まで回復させることができました!!

作業が終わるころには、
顔は真っ赤に日焼けし、着て
いた服も汗でビショビショに
なっていました。どこか
清々しい気持ちに包まれま
した。



これからMランドにお越
しく下さるゲストに、より良
い教習が提供できるように、
何が出来るかを常に様々な
視点から考え、更なるレベ
ルアップを図っていきます。

【掃除に学ぶ会】のご案内

私たちと一緒にトイレ掃除をしませんか？

- 場所 Mランド
- AM8:00~AM9:00

※トイレ掃除のできる服装でお気軽にご参加ください。

デカンシヨ祭

毎年、八月十五・十六日に開催される丹波篠山の夏の風物詩「デカンシヨ祭」。今年で七十一回の開催となりました。

コロナ禍が落ち着いた昨年は、四年ぶりの通常開催となりましたが、初日は台風の影響により中止になり、今年久々に二日間開催できることとなりました。

デカンシヨ祭は日本遺産や市指定無形民俗文化財に選定されている「デカンシヨ節」の手拍子に合わせて踊る、西日本最大級の民謡の祭典です。お祭り会場の中心には巨大な木造ヤグラが設置されており、皆でヤグラを囲んでデカンシヨ節を踊る「総踊り」は圧巻のひとつです。



Mランドもコロナ禍前までは、お祭りの前日に「デカンシヨ祭り保存会」の方に踊りのレクチャーを受け、当日には「Mランド連」を結成し、たくさんさんのゲストと共に参加したことを思い出します。今年も、デカンシヨ祭りの時期に滞在されているゲストを対象に、浴衣の貸し出しを案内しますと、大喜びで借りに来られました。



お祭りに参加されたゲストの皆さまから、感想をたくさんいただきましたので、一部をご紹介しますいただきます。正直、Mランドに入校したときは免許合宿に励むだけの日々を過ごすんだなと思っていました。浴衣を貸し

出してくれて、それを着てデカンシヨ祭りにいったことは今年の夏一番の思い出になりました。先生も、「今日は息抜きでいってきなさい」と背中を押してくれて、この時期の合宿に来てとても嬉しかったです。



デカンシヨ祭のことはここに来て初めて知りましたが、とても活気があり、屋台も花火も盆踊りも最高でした。日々の教習やテストで緊張して疲れていた部分も、豪華なお祭りでのリフレッシュできました。教習所に来て浴衣で夏祭りに行けるなんて思ってもいなかった。Mランドにきてよかったです。来年も来たいです!!

デカンシヨ祭の翌日の教習中にも、「昨日デカンシヨ祭にきました！めっちゃ楽しかったです！今まで行った祭りの中で一番良かったです！なんか花火に頼りきってなくて、会場全体が祭り一色のムードになっているのが最高でした!!また来年も友達も誘って一緒に来ます！」と興奮冷めやらぬ勢いで話してくれました。



びっくりするほどの熱量で感想を言って下さる姿に、最初圧倒されながら聞いていましたが、目を輝かせながら本当に嬉しそうにお話を下さるようすに、私まで楽しくさせていただきました。

また来年も、ゲストの皆さまのたくさんの素敵な笑顔を見ることができると思うと今から楽しみです。

礼節

代表取締役社長

井階 正義

つい先日、親戚が入院した。救急車で緊急搬送された。突然のことで驚いたが、仕事を中断してすぐに駆けつけた。

幸い、大事には至らなかったが、慣れないことなので少々戸惑い、不安がよぎる。四十年前程前に、父親が入院して以来の経験だった。今回の出来事で、私が「病院」や「入院」というものに対して抱いていた感覚、感情が変わった。まず看護師さんが笑顔で接してくれる。そして最後には「ありがとうござい

ます。」「いえいえ、こちらこそ。主治医は病状説明の際、ゆっくりとした口調でイラストを用いて、優しく丁寧に話してくれる。

時代が変わったのか、それとも私が幸運にもこの様な機会に巡り合わなかったか

らなのか、以前私が感じていたイメージは一変した。親戚には大変申し訳ないが、いい勉強になった。

ちょっとした言葉、所作が良好な人間関係を創り、人を元気にして不安を払拭してくれる。

私もこれから周囲にいる人たちに、敬意をもって、品位ある態度で接する「礼節」を心がけたい。

編集後記

一莉の涙

ある日の教習中、涙を必死にこらえながら、運転されている方がおられました。理由を聞いてみると、「不安」と「悔しさ」。ゲストは多くの感情を抱えながら、毎日の教習に励まれています。

私はこの涙を必ず最高の笑顔に変えたいと強く感じました。後に、仮免許試験に合格された彼女に声をかけると、一緒に来られたお友だちと、最高の笑顔で喜んでおられました。こんな笑顔は一人でも多く。すべてはゲストのために。

前川 昂希